

# 北海道大学附属図書館外部評価実施要領

## 1. 目的

北海道大学附属図書館においては、学生・教職員が必要とする多様な情報資源の収集とそのサービスの提供、学内情報関連施設および国内外の関連機関との連携・協力の推進、地域住民の生涯学習の支援等を基本的な目標に掲げている。これらの目標の達成状況について学外有識者による評価を行い、もって図書館サービスの高度化および業務の改善に資することを目的とする。

## 2. 実施方法

- ① 附属図書館自己点検報告書（平成14年度）等の資料による評価
- ② ヒヤリングによる評価
- ③ 実地視察による評価
- ④ アンケート調査結果による評価

## 3. 実地視察対象図書館（室）

本館、北分館、部局図書室のうち数部局

## 4. 外部評価委員

次の分野から各1名を選考する

- ・ 国立大学附属図書館長経験者
- ・ 私立大学図書館関係者
- ・ 公共図書館関係者
- ・ 図書館学関係者
- ・ 図書館建築関係者
- ・ 国立大学図書館事務関係者

## 5. 外部評価日程

7月下旬

- ・ 委員の決定、委嘱依頼。

8月上旬

- ・ 内部資料送付。

9月下旬

- ・ アンケートの対象者抽出、発送。

10月中旬

- ・ アンケートの締め切り、集計。

11月上旬または中旬

- ・ 外部評価委員会開催、実地視察。
- ・ 評価結果のレポート依頼。

12月下旬

- ・ レポート提出期限。

1月上旬

- ・ レポートのまとめを各委員に送付、点検。

2月下旬

- ・ 外部評価報告書としてまとめ、印刷へ。

3月下旬

- ・ 報告書刊行。

## 北海道大学附属図書館外部評価委員会委員名簿

### 委員長

- |         |                        |
|---------|------------------------|
| 小 田 忠 雄 | 東北大学名誉教授（前東北大学附属図書館長）  |
| 小 林 真 之 | 北海学園大学教授（北海学園大学図書館長）   |
| 河 村 猛 将 | 北海道立図書館長（北海道図書館連絡会議議長） |
| 佐 藤 義 則 | 山形県立米沢女子短期大学助教授        |
| 下 村 憲 一 | （株）環境設計代表取締役           |
| 大 埜 浩 一 | 京都大学附属図書館事務部長          |

## 外部評価委員会記録

平成15年7月3日 図書館委員会において外部評価を実施することが了承され、外部評価の要項及び委員会の設置が承認された。また、外部評価の基礎資料とするため利用者へのアンケートを実施することも了承された。なお、外部評価委員の人選は館長に一任された。

10月9日 図書館利用に関するアンケート実施

10月10日 外部評価委員候補者への委嘱方照会

10月16日 外部評価委員を委嘱

10月16日 外部評価委員へ事前資料を配布

10月31日 アンケートの締め切り、集計

11月10日 外部評価委員へアンケートの集計結果を配布

11月20日 1日目の外部評価委員会開催

出席者：外部評価委員 小田忠雄委員長、小林真之、河村猛将、佐藤義則、  
下村憲一、大埜浩一各委員

：北海道大学 井上芳郎図書館長、大平具彦副館長、佐藤正勝事務部長、  
矢野誠情報管理課長、山田幸彦情報サービス課長、  
加徳健三情報システム課長  
(陪席) 田中正彰情報管理課課長補佐、  
佐々木光子情報システム課専門員

9:00～9:40 外部評価委員による打ち合わせ(委員長に小田委員を選出)

9:40～10:00 中村総長へ表敬訪問

10:00～12:00 附属図書館から概要説明、質疑、視察

13:00～14:30 北分館の概要説明、質疑、視察

14:30～16:00 医学部図書室の概要説明、質疑、視察

16:00～17:30 工学部図書室(専攻図書室を含む)の概要説明、質疑、視察

11月21日(金) 2日目の外部評価委員会

9:00～10:30 外部評価委員と本館・北分館・部局図書室(医・工学部)の課  
長補佐、専門員、掛長との懇談

10:30～12:00 外部評価委員と利用者(教員、学生別)との懇談

13:00～16:00 外部評価委員と館長等との質疑応答

平成16年2月12日 小田委員長から外部評価報告書の提出があった。



質疑中の委員会



本館視察

## 外部評価委員会に配付した資料

1. 北海道大学附属図書館自己点検評価報告書
2. アンケート実施報告書
3. 北海道大学図書委員会「学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会」報告書
4. 北海道大学附属図書館増築・改修検討小委員会
5. 北海道大学概要
6. 北海道大学附属図書館概要
7. 北海道大学附属図書館北方資料室概要
8. 北海道大学附属図書館報「**楡陰**」 113号～115号
9. 北海道大学附属図書館報速報「**楡陰レター**」
10. 利用の案内

## 北海道大学附属図書館外部評価委員会利用者（教官）懇談会

**日時** 平成15年11月21日（金） 午前10時30分～12時

**会場** 附属図書館中会議室

**参加者** 利用者 4名

法（公法）：笹田教授 理（数学）：林教授 医（社会医療管理学）：寺沢教授

留セ：ピーター・フィルコラ助教授

**委員** 小林委員（進行） 大埜委員 下村委員

懇談に先立ち、委員の自己紹介があり、続けて利用者4名から図書館に関わる各々の現状について、紹介・説明をいただいた。

**法**：平成16年4月のLaw School開設に向けて準備中。24時間サービスを唱っているため勉強環境整備が課題である。新棟建設も要求はしているが未定の状態なので、初年度の受入学生100名用に1部屋用意し、狭いながら基本図書や判例等揃えている段階で、判例集は冊子とOnline-Web版の2種類用意。3年コースで最終的に250名程度を受け入れることになる。全てが流動的な状況であるが鋭意努力中である。

**理**：理学部数学専攻では数学専攻図書室が身近にあって便利。学問分野の特徴として、古い文献の価値が高く、古い程入手難であることから図書の保存管理が大事である。道内で唯一の数学専門図書室として、学外へのサービスも設定したい。図書のみならずプレプリント・シリーズや消耗品購入資料も独自にデータベース化し、貸出もしている。問題点は、人員削減、予算減で、COEが当たったが、予定していた図書充実は減額のためできず、今後資料の散逸などが心配である。

**留セ**：HUSTEP（北大短期留学制度）を担当、研究専門分野は経営学。留学生は概ね勉強環境に満足と見受けられ、本館閲覧室の国際交流コーナーや、英文利用案内などとても良い。希望としては、コンピュータを増やして欲しい。母校のカナダの大学等どこも沢山のコンピュータを用意している。また、利用時間を夜間延長して欲しい。OPACの英語版対応画面を増やし、研究室所在図書や閉架図書の説明など欲しい。文献データベースでは、経営・経済学関連データベースを増やして欲しい。

**医**：パソコン、Webで医学情報・文献を探すのは確かに有効であるが、学生は普段から文献に馴染むことが大切であり、今のところ30%位がそうと思われる。卒業後臨床医として読んで書く力が必要となるので、冊子体二次文献を利用するなど大事である。希望としては、小グループ学習を実施しているので、1学年100名いる学生用の小グループ学習室が欲しい。現在医学図書館にあるのは3グループ分のみで、あとは点在しており、図書館にあって資料を手元に調べられるのがベストなので、30～40室欲しい。保健学科ができたが、集中化については、院生レベルでは文献を共有するわけで、場所的に近い方が良い。医・歯・薬・獣は基礎研究では共通するところが多く、集中化について調整してはいるが未だ遠い。医系図書館構想も同様である。

### ▼以下、委員との懇談

**Q**（大埜委員） Law Schoolの建物、図書室について、全学的合意の下に作成された全学的プラン

を示すなど、文科省を説得できる計画提示が必要ではないか？

- ・法：各専攻への予算は良く現状と聞いており、学内の意見調整・合意形成は難しい。Law School は全国で72校申請しており、電子機器くらいは入っても建物が出来ないという状態で、当面のスペース確保に苦慮している有様である。図書館が隣接しているので、色々考えていきたい。
- ・理：建物の整備に計画性があるとは思えず、予算がつき建物ができても外見に内実が伴っていない。理学部図書室が出来ても閲覧のみで、学科はスペースがないなど、箱ができて本当に良くなっているのか疑問だ。

Q（小林委員） 専攻図書室を中央に集中するという考えについて、どう思うか？

- ・理：数学では反対が多い。図書は実験器具と同じようなものだ。専攻なら院生以上には長期貸出が認められ、辞書的参考図書も身近で利用できる。中央に集中すると利用条件が狭められ、研究効率が低下する。使い勝手が保証されれば考えないこともないが、最後まで専攻図書室として頑張ると思う。物理専攻も同様で、自由利用、自己管理だ。

Q（下村委員） 新館が北キャンパスに計画されているが、場所をどう思うか？ 電子化が進んではいるが、本館が古く狭い以上、雑誌保管・保存の場所としてスペースは必要と考えられるが、雑誌のバックナンバーの集中化についてどう考えるか。

- ・留セ：自分の専門は図書がなくても研究ができる。分野によるけれどもね。
- ・法：判例集などは Web で利用できるが、サーバは東京、やはり身近に冊子も一部は欲しい。法学でも基礎法分野は現資料が必要、保存も大事だ。
- ・医：電子化が進んでいる分野だが、写真が多いので高精細が要求される。医学部では図書は学生用のテキストで、雑誌は学生・教官共用である。冊子体雑誌はどこかに一部取り置き、後は処分してよい。デリバリー・システムが伴うなら、利用の低いものを保存センターに集中してもよい。
- ・理：電子化は進行しているが、進んでいる分野が限られている。利用しやすく良いがコピーライトなどの利用制限など大丈夫なのだろうか？ 電子ジャーナルは国が一元化しサービスするのがベストだ。なお、あまりにも現物の集中化が進むと、災害などで1ヶ所がダメになった時など心配である。

Q（小林委員） 部局図書室への要望はありますか？

- ・法：部局の人的保証をどう作るか問題だ。法学部は現在資料室に2名いるが、今回新たに1室準備中で、これからどうなるのかまだ判らない状態だ。
- ・留セ：留学生センターは、図書室が欲しいけれど、そのためのスペースが無い。

Q（大埜委員） 大学の責任による全学的な解決策が必要だ。雑誌だけは集中化してデリバリーするとか、大学のスペース計画（10年スパンなど一定長期的）の下に、妥協点を見いだして進めていくことだ。本・分館は学習機能強化し、専攻図書室は専門分野を分担とか、学生と教官を分けて考えてみるなどもある。利用者が所属する図書室で、全学的サービス、つまり全学的借用、返納、文献デリバリーなど享受できるよう進めることが大切だ。パソコンの充実化も図書館だけでなく、全学的に基盤センターなどと連携サービスするなど考慮していくべきだ。

## 北海道大学附属図書館外部評価委員会利用者（学生）との懇談会

日 時 平成15年11月21日（金）午前10時30分～11時55分

場 所 大会議室

参加者 学部学生 6 名、院生 5 名（内留学生 1 名）

委 員 小田委員、河村委員

参加者及び委員の自己紹介の後、委員から、図書館利用者の立場から、①どのような場合どの図書館を利用し、必要な資料を入手しているか、②授業等の空き時間をどのように利用しているか、③ネットワークを利用した感想、④職員の対応、⑤その他要望等に沿って順次意見をお聞かせ願いたい旨の発言の後、懇談に入った。

### Q1 どのような場合図書館を利用しているか？（場所、頻度等）

- ・本がないと勉強が成り立たないのでほぼ毎日、本館、分館、文学部図書室を利用している。分館は距離的に離れているので、行くのが面倒になる。学部の図書室は土日開館していなく、平日の開館時間も短いので困っている。本館に集中してほしい。電子ジャーナルの使用頻度は高まっているが、足りない部分がある。（文学研究科修士2年）
- ・本館と法学部図書を利用している。資料探しが主で、書庫で探しコピーを取る。データベースはあまり利用していない。（法学研究科修士2年）
- ・理学研究科の大学院で気象学を専攻しているが、理学部図書室はさほど利用してなく、地球物理の図書室を使っている。電子ジャーナルは論文の分野が今年から使えるようになった。電子ジャーナルの図はつぶれてしまうので、拡大は無理。北大にない資料の文献複写は、本館でお願いしている。趣味の分野（随筆？）で北大の他に市立、道立の図書館を利用している。（理学研究科博士2年）
- ・研究題目が日本戦後史なので、全国に散らばっている資料を得るために、相互貸借を利用し、図書館のお世話になっている。施設面で、天井の低さ、本の横積、火災の対策、バリアフリーの遅れを解決して欲しい。（文学研究科修士1年）
- ・日本史を専攻しているが、レポート作成やゼミでの発表のための資料集めに利用している。資料探しの際自分は学部生のため書庫に入れない。入るには手間がかかる。本館の参考閲覧室が17時に閉まり、不十分だ。（文学部3年）
- ・卒論のため本を借りるが、貸出期限の15日は短く延ばしてほしい。教育学部の図書をコピーする際、他学部生への複写ができなく、いったん借りて他所でコピーするのは面倒。カードとか現金で利用できないか。（文学部4年）
- ・資料集めで本館、分館、学部図書室を利用している。本館書庫も特例で使っている。学部図書室は17時に閉鎖されるが時間の延長をお願いしたい。（文学部4年）
- ・学部図書室と本館の書庫を利用しているが、4年生は特例でなく自由に入れて欲しい。書庫の開館時間が短い。本館にもっと小説をいれてほしい。（教育学部4年）
- ・経済学部の図書室には雑誌を常に新しい物を用意してくれているので、日に日に変化する経済に役立っている。希望する図書を Web で申し込んで購入してもらったが、1カ月以上も時間がかかってしまった。もっと早くできないか。学部学生は1人5冊まで借りられるが、卒論で利用す

る場合は引用することが多いので、足りない。自習スペースがいつも埋まっている。座席を増やして欲しい。(経済学部4年)

- ・北分館の個人ブースを公務員試験勉強などでよく利用している。仕切があると勉強がすすむ。海外に留学した際、24時間開館の自習室があった。勉強は夜がはかどる。北大でも安全面で可能であれば是非お願いしたい。語学の教科書が不十分。学部図書室にもコピーカードの販売機を置いて欲しい。(法学部4年)
- ・北大には植民地時代の資料が充実している。本館書庫、北分館個室、農学部の図書室を利用している。コピーサービスを利用しているが、とても便利だ。(法学研究科修士)

## Q2 学生生活上、授業の合い間にはどうしているか？

- ・大学院のため授業は学部生ほどないが、合い間はほとんど勉強している。合い間で困ったことはない。北大はスペースが多いので本を読むには適している。
- ・北分館にはグループ学習室が少ない。

## Q3 ネットワークの利用度は？(自宅から、研究室から)

- ・パソコンが自宅にないのでほぼ大学で利用している。以前在籍していた大学よりもっとよい環境にある。
- ・検索から予約を入れるとメールで返事が来るので重宝している。
- ・図書関係でネットワークは使わない。窓口に行って探した方が早いと思っている。
- ・相互貸借をメールで利用している。取り寄せが早い、料金を先払いのため郵便局、大学を行ったり来たりする時間がかかる。東北大学では現金でできる制度がある。
- ・検索に利用している。本のある場所が分かった後、どうすればいいのか。北分館には所在の親切な機能がある。本館でも是非に。
- ・検索以外ネットワークは使わない。検索で「〇〇学部の△△教官室にあります」と表示されても利用しづらい。本館で仲介をしていただけないか。
- ・希望図書を見つけるために利用する。本の内容の見出しを付けて欲しい。特にビジネス書を見出しも検索できればと願っている。貸出の返事でメールは携帯でも使えるようにして欲しい。自宅のパソコンは家族も利用し、必要なメールが消されたことがあるので。
- ・文献複写申し込みで窓口での手書きは面倒。メールでの申し込みは便利だと思います。

## Q4 良い点で強調したいことは？

- ・以前在籍していた大学に比べて蔵書数が多い。
- ・書庫で本を見つけやすい。
- ・和書で活字になっていないものも利用できること。
- ・植民地時代の本は日本有数だが、残念なことに書庫が老朽化している。
- ・歴史の貴重資料が多い。とくに北方資料室は素晴らしい。
- ・他大学の友人の話では。北大は充実していると聞いている。
- ・高額な洋書を希望図書でお願いしたら買ってくれた。うれしかった。
- ・北分館で古い映画が見られるので、楽しい。
- ・海外の大学に留学した際、現地の先生から植民地時代の資料充実を評価された。